

平成29年度

# 所 報



鳥取市教育委員会  
鳥取市教育センター

## はじめに ～この子らを世の光に～

平成19年4月、鳥取市の教育課題である学校不適應の解消を目的に開設された鳥取市教育センターは、平成29年度で11年目を迎えました。

現在も、適応指導教室「すなはま」「レインボー」を擁し、体験活動の充実や保護者相談等をとおして児童生徒の自立支援と学校復帰等に取り組んでおり、教育センター創設時の精神が受け継がれています。子どもたちの育ちを基盤とするセンター業務は、生徒指導や特別支援教育などの領域や区分を越えたものであり、私たち所員の活動の原点と言えます。

さて、時代は変わり、平成30年4月、鳥取市は中核市となります。中核市は任命研者である県に代わり、県費負担教職員の研修を行うことが定められており、本年度はその準備の年となりました。折しも教育公務員特例法の改正によって「校長及び教員の資質の向上に関する指標の全国的な整備」が実施される年度と重なり、県の指標策定の状況を見ながら中核市独自の研修体系を作成することとなり、関係機関との調整は多岐を極めました。校長会・教頭会・PTAや大学関係者等、たくさんの皆様のご協力を得て一先ず研修の準備が整いましたことを、心より感謝いたします。研修ガイドのサブタイトルにあるように、平成30年度が「研修で学校が変わる」元年になることを願っています。

特別支援教育係は、学校や保護者の教育相談に加え、就学前小集団活動、ひらがな音読支援事業、通級指導教室、教育支援委員会の運営など、様々な事業に取り組んで着実に成果を上げてきました。現在、教育・保育・福祉・保健・医療等との連携による、ワンストップ体制の構築に向けて準備を進めています。

平成29年度、教育支援委員会への申請件数は、210件を超えています。教職員の特別支援教育に関する資質・能力の向上は急務であり、次年度も研修との連動を図りながら学校支援を継続します。

教育センター入口に、柴山抱海先生によって書かれた「この子らを世の光に」の額が掲げられています。障がい者福祉の父と呼ばれた糸賀一雄氏のこの言葉は、障がいの有無に関わらず、子どもたちがみずみずしい生命にあふれた存在で、私たちに生命の大切さや生きることの素晴らしさを気付かせてくれる存在であることを示しています。平成30年度が、子どもたちが鳥取の未来を担う世の光としてかがやく、「すべての子どもが幸せになる」年になることを願っています。

最後になりましたが、今年度、教育センターの運営にご協力を賜りました関係の皆様へ厚く感謝申し上げます。今後とも一層のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成30年3月

鳥取市教育センター  
所長 半田 雅人

# 目 次

はじめに

## I 鳥取市教育センターの概要

1	設置の目的	1
2	沿革	1
3	組織及び業務	1

## II 平成29年度の事業概要

1	特別支援教育の推進	2
2	教育相談事業	4
3	適応指導教室「すなはま」「レインボー」の運営	6
4	学校支援 ～T式ひらがな音読支援事業～	10
5	学校支援 ～早期からの教育相談・支援体制構築事業～	12
6	教職員研修	14
7	学校支援人材活用 ～小学校外国語活動支援員～	17
8	きなんせ！English World	18

# I 鳥取市教育センターの概要

## 1 設置の目的

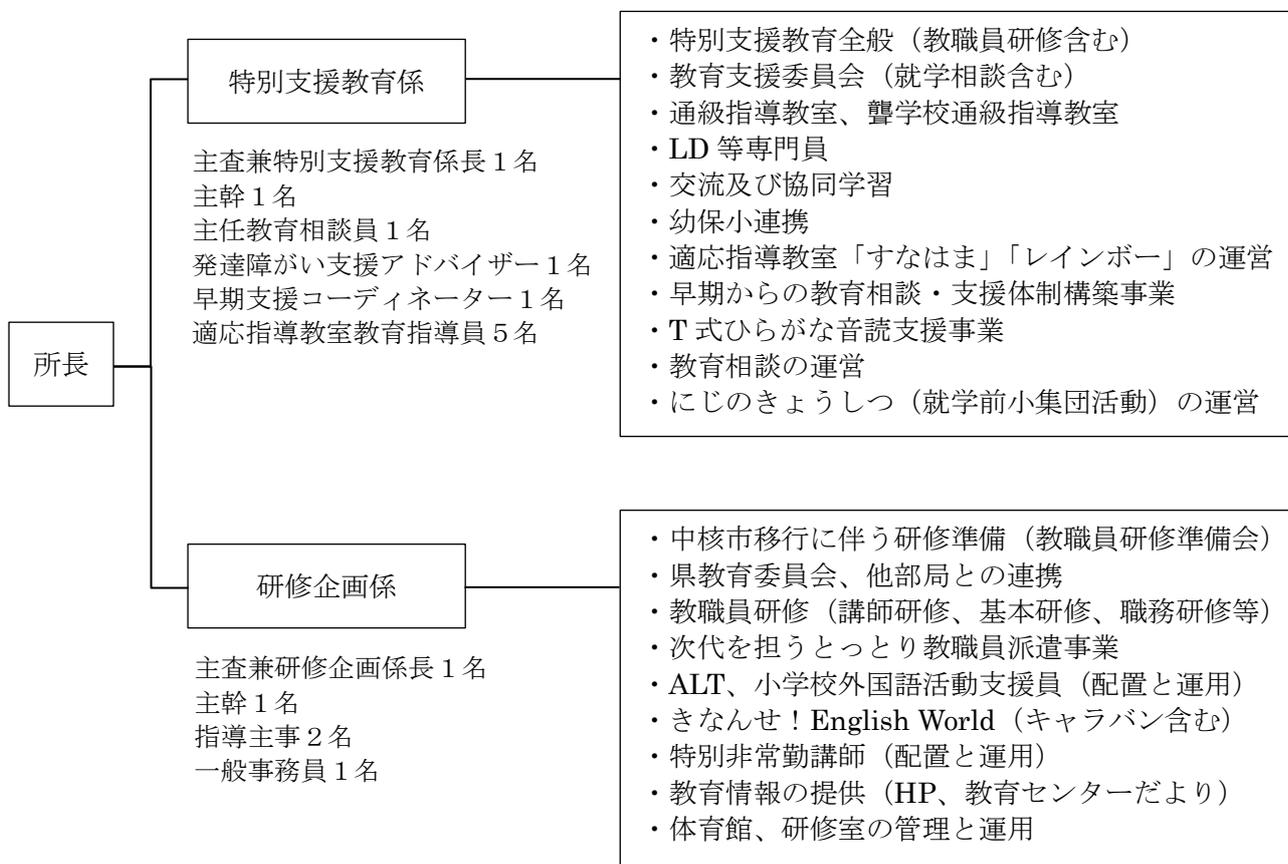
教育に関する専門的、技術的事項の調査研究、教職員の研修等を行うとともに、不登校等の児童生徒に対する支援を行い、教育水準の向上及び児童生徒の健全な育成を図る。

(「鳥取市教育センターの設置及び管理に関する条例」より)

## 2 沿革

平成19年 4月 1日	鳥取市教育センターの設置及び管理に関する条例施行 鳥取市寺町150番地に鳥取市教育センター設置
平成19年 4月26日	鳥取市教育センター開所式
平成20年 4月 1日	適応指導教室「けたかレインボー」気高町総合支所3階に移設
平成28年 4月 1日	特別支援教育係を新設、研修企画係との2係体制
平成28年11月11日	適応指導教室「けたかレインボー」鹿野町総合支所2階に移設 「レインボー」に名称変更

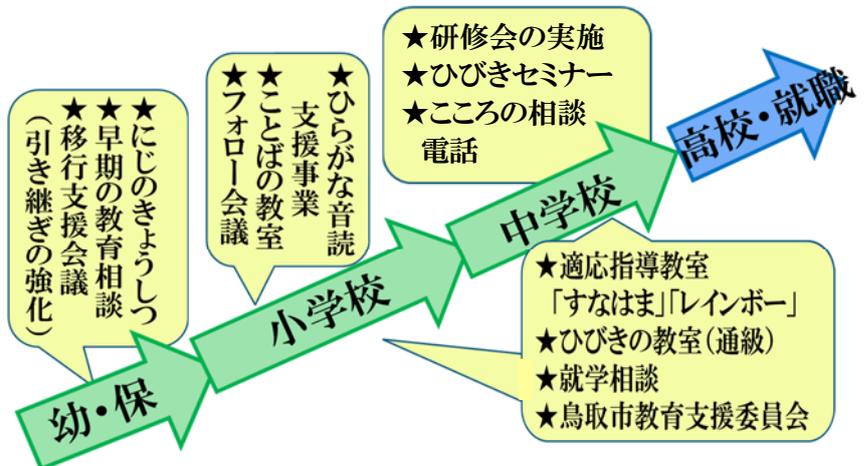
## 3 組織及び業務



# 1 特別支援教育の推進

## 特別支援教育係の努力点

特別な配慮が必要な子どもの学校適応に向けて支援の充実を図るとともに、一人一人の「社会的自立」に向け、教育的ニーズに対応した切れ目のない支援とワンストップの相談体制の構築を図る。



【ミッション】情報の伝達と共有⇒情報の活用を！

### (1) 取り組み内容

#### ① 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と活用

・校種間・学年間の引き継ぎと支援の充実を図るため、「個別の指導計画」等の作成・活用に関する演習を取り入れた研修会を実施した。

#### ② 「就学相談の手引き」の作成と配付

・保護者との信頼関係を基にした就学相談を進めるため、園長会・校長会・小教研の部会で内容の周知を図った。



#### ③ 教育支援委員会の運営

教育委員会	審査期日	審査件数
第1回教育支援委員会	H29. 9. 21	4 1名
第2回教育支援委員会	H29. 11. 30	1 3 3名
教育支援委員会（特別審査）	H29. 12 以降	4 2名
合計		2 1 6名

・前年度比7名増。保護者の意見を尊重しながら、適切な教育的措置ができるよう、特別支援学校や特別支援学級の見学・体験を勧め、就学相談の充実を図った。

#### ④ 言語・発達障がい通級指導教室の運営

ことばの教室		ひびきの教室							実績合計
久松小学校	湖山西小学校	湖山小学校	美保南小学校	面影小学校	浜坂小学校	浜村小学校	南中学校	湖東中学校	
1 9名	1 1名	1 9名	2 1名	2 2名	1 7名	1 7名	1 9名	1 4名	1 5 9名

・通級の手引きを各学校に配付した。通級指導教室担当者とLD等専門員連絡協議会を年間3回開催し、11/2には「つむぎ」作業療法士 来間寿史氏を招き、研修会を実施した。  
・ひびきの教室については、年3回入級審査会を実施した。(5/31・9/13・3/1)

## ⑤ 教職員研修の充実

開催日	研修会名	内容等
4/27	副校長・教頭研修会	・今年度の特別支援教育の方針について
5/11	特別支援教育ステップアップ研修会①	・小中学校における特別支援教育の体制整備の充実について (県教育委員会特別支援教育課 上灘良輔 指導主事)
5/25	特別支援教育支援員研修会①	・通常学級において特別な配慮を必要とする児童生徒への支援の在り方について (「エール」川口 栄 所長)
6/20	特別支援教育ステップアップ研修会② 特別支援教育支援員研修会②	・発達が気になる子へのアプローチの仕方 (「エール」川口 栄 所長)
9/26	特別支援教育ステップアップ研修会③	・発達が気になる子の支援の充実 ～「個別の指導計画」の評価・活用を通して～ (「エール」川口栄所長・綾女京子 課長補佐)
6/29	特別支援学級担当者連絡協議会	・自立活動の「個別の指導計画」の作成ポイント (県教育委員会特別支援教育課 上灘良輔 指導主事)
4/21 11/21	生徒指導専任相談員研修会	・不登校の理解と相談室の役割 (生徒指導係 狩野司 係長) ・学校・家庭・関係機関との連携について (松下成子 臨床心理士)
8/19	「愛着の問題」に関する講演会	・愛着の視点から こどもの支援を考える (和歌山大学教育学部 米澤好史 教授)



## (2) 成果と課題

- 特別支援教育ステップアップ研修会を3回、特別支援教育支援員研修会を2回実施した。アセスメントの大切さや「個別の指導計画」を生かした具体的支援等、より実践的な内容による研修で理解を深めることができた。
- 早期支援コーディネーターを中心に情報共有がスムーズにでき、園や学校にチームで効果的な就学相談や移行支援をすることができた。
- 「ひびきセミナー」の要請がなかった。PRを強化すると共に、ワークショップなど学校の課題や悩みに対応した研修会を検討することが必要である。
- 教育支援委員会の中で特別審査の件数が年々増加している。就学相談の年間計画や就学可能な障がいの種類と程度について、学校の実態を確認しながら周知していく必要がある。

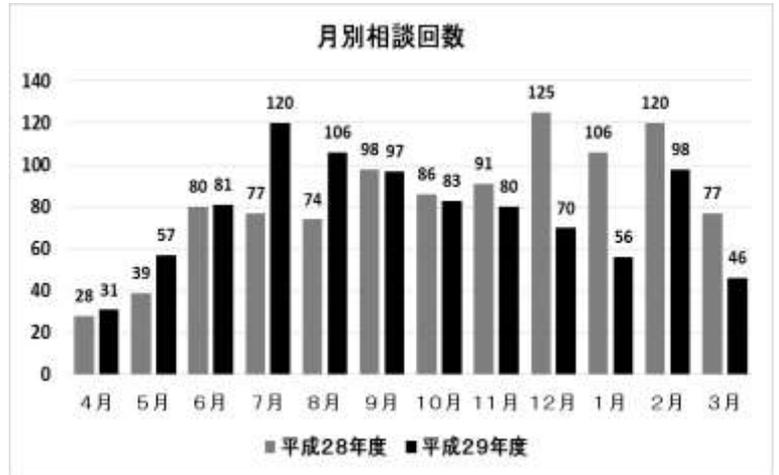
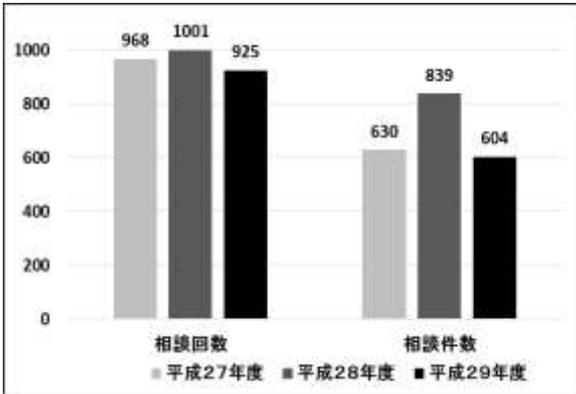
平成30年度に向けて

- 「小中学校教職員対応要領」の考え方をもとに、インクルーシブ教育の理解と推進を図るための研修会を実施する。
- 「情報の伝達・活用」を重視し、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を生かした支援を次年度につなぐ体制の充実を図る。
- こども発達・家庭支援センターとの協働や「就学相談の手引き」の活用による相談体制の強化・充実を図る。

## 2 教育相談事業

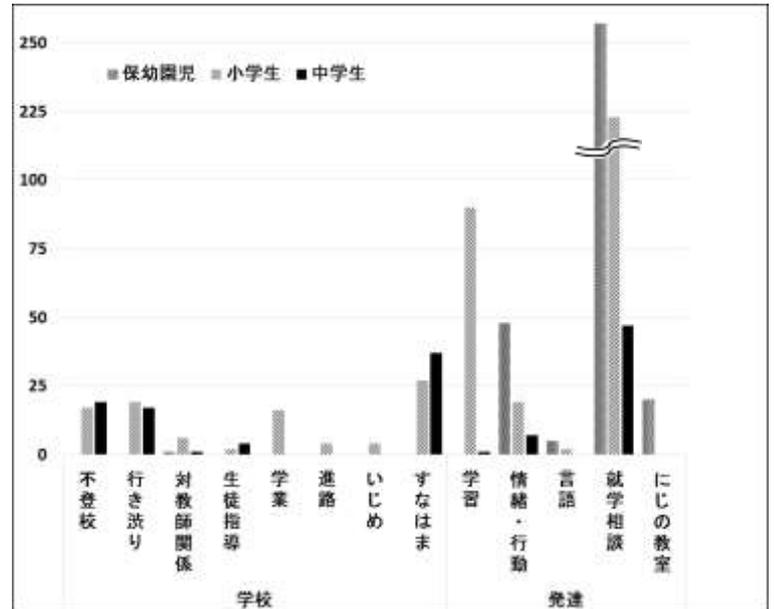
### (1) 相談支援

#### ① 相談回数・件数

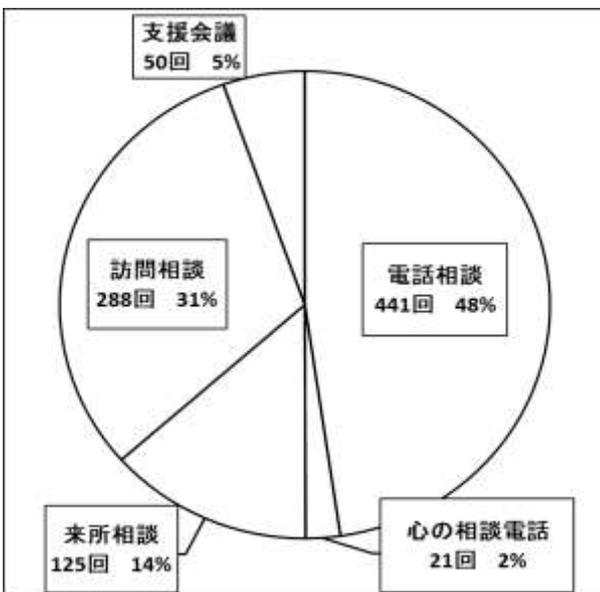


#### ② 相談内容

項目	対象			
	幼児	小学生	中学生	
学校	不登校	0	17	19
	行き渋り	0	19	17
	交友関係	0	1	0
	対教師関係	1	6	1
	生徒指導	0	2	4
	学業	0	16	0
	進路	0	4	0
	いじめ	0	4	0
	すなはま	0	27	37
	その他①	0	3	2
家庭	親子関係	2	2	0
	しつけ	1	2	0
	家庭内暴力	0	0	0
	家族間不和	0	0	0
発達	学習	0	90	1
	情緒・行動	48	19	7
	言語	5	2	0
	就学相談	257	223	47
	にじの教室	20	0	0
	その他③	21	7	3
	非行関係	0	0	0
問題行動	その他④	0	0	0
	問い合わせ	2	2	1
その他	その他⑤	1	1	0



#### ③ 相談形態



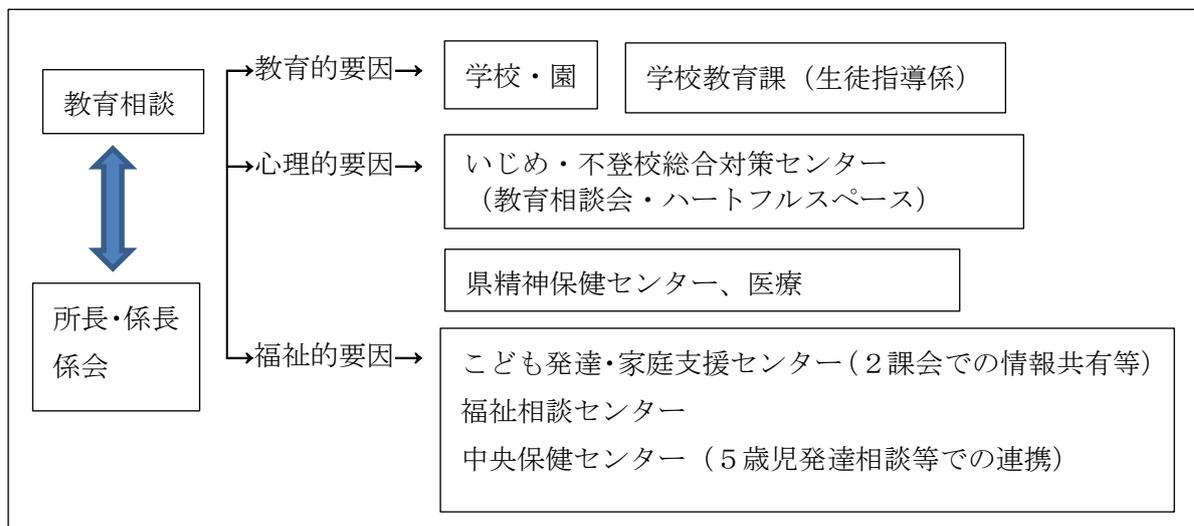
- ・昨年度と比べ、相談回数（76回減）、相談件数（235件減）とも大きく減少した。来所相談が減少（317回減）したことによるが、電話相談（161回増）と訪問相談（49回増）は増加した。訪問相談の内容は、「発達（就学相談、情緒・行動、学習）」が中心で、センターの各担当は園や学校の実態に応じた支援に努めている。
- ・相談者の内訳は、教職員51%、保護者30%、関係機関16%で、対象者の内訳は、保幼園児38%、小学生47%、中学生15%であった。

- ・相談内容の内訳は、就学相談（発達）57%、情緒・行動、学習（発達）16%、不登校関係（不登校、行き渋り、すなはま）15%であった。項目別に見ると、ほぼ「学校」「発達」が占め、「家庭」「問題行動」に関する相談はほとんどなかった。

#### ④ その他の取り組み内容

##### ○各専門機関との連携

- ・「不登校」、「発達（就学相談等）」の相談が多く、相談内容によっては、保護者の理解を得ながら所属学校や専門機関につなぎ、よりよい支援につながるよう心掛けた。
- ・特に生徒指導に関わる内容、いじめや体罰が疑われる内容は、迅速に学校教育課（生徒指導係）に連絡し連携を図った。



## （2）成果と課題

- 園や学校、家庭生活での子どもをめぐるさまざまな問題や不安に対して、関係機関と連携しながら、相談者や教職員を支援したりコーディネートしたりすることに努めた。
- 学校現場を知る相談員が、保護者に具体的なアドバイスをしたり、子どもや保護者の不安軽減のために定期的に相談やSSTを行ったりして、教育相談の充実に努めた。
- 発達障がい支援アドバイザー、早期支援コーディネーターが、園や学校を訪問したり、支援会議等に参加したりして教育相談を進めることで、子ども・保護者のニーズに沿った支援に努めることができた。
- 園や学校が、見通しを持った就学相談が進められるよう教育相談事業を通して支援していきたい。

平成30年度に向けて

- こども発達・家庭支援センター発達支援係と連携し組織的な支援を行う。
- 相談内容をもとに課題をまとめ、各専門機関と共有する体制をつくる。

### 3 適応指導教室「すなはま」「レインボー」の運営

#### (1) 入級状況

① 入級児童生徒数 計 18名 (小5名、中13名) ※3月末現在

		小学校						中学校			計
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
すなはま	男	0	0	1	1	2	0	0	3	2	9
	女	0	0	0	1	0	0	1	3	2	7
レインボー	男	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
計		0	0	1	2	2	0	1	8	4	18

② 月別入級児童生徒数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規入級児童生徒数	3	2	4	2	0	0	2	2	1	1	1	0	18

③ 適応状況

段階	状 況	入級時	現時点
1	ほとんど通級することができない	2	0
2	週1～2日程度の通級ができる	3	4
3	週3～5日程度の通級ができる	9	6
4	在籍校へ授業中や放課後に登校し、相談室等で過ごせる	3	7
5	ほぼ毎日、在籍校に登校できる	1	1

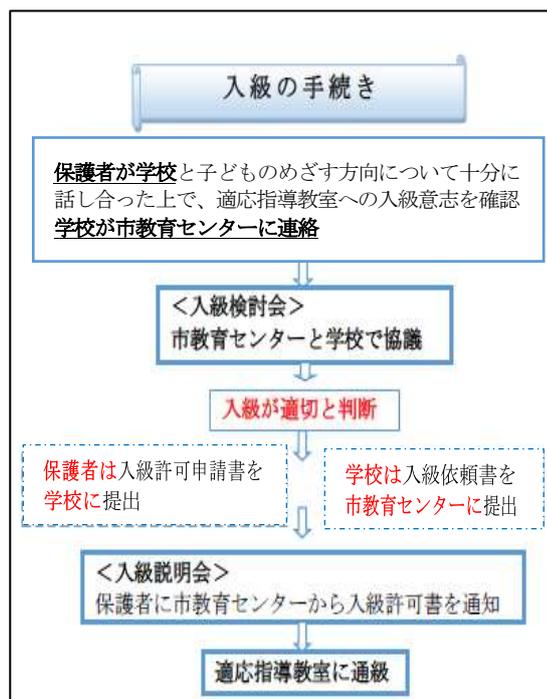
④ 卒業生進路状況

中学3年生4名(男子2名、女子2名)

- ・私立高校(全日) 男子2名 女子2名  
(城北高校1名、敬愛高校1名、クラーク高校2名)

⑤ 入級児童生徒について

- ・昨年度から今年度の継続入級生は7名だが、昨年度よりも来所状況は良好であり、来所が安定したり、チャレンジ登校ができたりする児童生徒が増えてきている。
- ・長期欠席による学習空白や個人の特性(学習障がい等)により学習に対して苦手意識を持つ児童生徒も少なくない。知的には高いが学校での授業に参加できない児童生徒も数名いる。



## (2) 教室の活動

		「すなはま」教室 一週間の予定表				
		月	火	水	木	金
午前	入室 (9:30~10:00)	読書・自主学習・プランニング(今日の学習予定を決める)				
	10:00~10:50	学習①	体験活動	学習①		
	10:50~11:00	休けい		休けい		
	11:00~11:50	学習②		学習②		
	11:50	昼のつどい		昼のつどい	昼のつどい	そうじ
午後	12:00~12:30	昼食(お弁当)				
	12:30~13:00	昼休けい				
	13:10~14:00	集団活動	体験活動	集団活動	スポーツ(体育館)	* チャレンジ 登校日を 個別に設定  * 最終金曜日は 閉室
	14:10~15:00	自由活動・今日のふいかえり				

### ① 学習

- ・児童生徒が教育指導員と相談しながら、一人一人自分で計画を立てて学習を行った。
- ・9月・1月にアセスを実施し、入級生の実態把握や変容状況の把握に努めるとともに、必要に応じて教育相談員と集団でのSST(ソーシャルスキルトレーニング)に取り組んだ。
- ・鳥取県立聾学校手話普及コーディネーターと手話普及支援員を招き、手話体験活動を行った。(3回シリーズ)
- ・中学生の学習支援を行うために学習支援員(数学・英語)を活用した。(11月~3月 月2~3回)
- ・在籍校と連携し、定期テストや技能教科の作品を仕上げた。



### ② 集団活動

- ・生活経験を広げるとともに、集団での適応力や社会性を培うことをねらい、月・水曜日の午後に集団活動の時間を設定した。
- ・制作活動や調理活動、すなはま農園作業等を計画的に行い、見通しを持って活動に取り組んだ。



### ③ スポーツ

- ・体力向上と心身のリフレッシュをねらい、木曜日の午後にスポーツの時間を設定した。バドミントン、バスケットボール、卓球等を中心に運動を行った。
- ・「レインボー」では、鹿野町トレーニングセンターを借りて、バドミントンをするなど体力作りやリフレッシュに努めた。



### ④ 昼のつどい

- ・話をじっくりと聞く態度の育成、自分の生活を振り返るきっかけ作りをねらい、センターの全職員が交代で、季節・行事・時事内容・言葉・国際理解・人の生き方等、テーマを決めて話をした。



## ⑤ 体験活動

- ・地域の社会的施設や人材を有効活用し、地域の良さを感じたり、人との関わり方や社会性を培ったりすることをねらい、原則毎週火曜日に1日または半日を単位として設定した。
- ・「勤労生産的活動」、「創造・文化的活動」、「自然体験活動」、「社会体験活動」の4つの領域に分類し、年間計画を立てて実施した。
- ・市内の小中学校の相談室登校や在宅等の児童生徒にも、外部に目を向け多様な経験をする機会として参加を呼びかけ、入級児童生徒との交流を図った。

### 【平成29年度 体験活動一覧表】

期日	内容	場所	期日	内容	場所
5/9	調理実習(炊き込みご飯)	すなはま教室	10/18	ポニー牧場(水曜日実施)	ポニー牧場
5/16	県立博物館見学	鳥取市東町	10/24	そば打ち体験	国府方面
5/23	太閤が平ハイキング →樗谿公園	熊出役の恐れのため変更 鳥取市上町	11/7	アトリエ教室・万葉歴史館	国府方面
			11/14	交流活動(デイハウスじゅんぶう)	鳥取市女好町
6/6	消防署・青島探索	湖山方面	11/21	調理実習(参観日)	すなはま教室
6/13	ニュースポーツ	鳥取市教育センター体育館	11/28	さじアストロパーク	佐治方面
6/20	砂の美術館・砂丘散策	砂丘方面	12/5	交流活動(福部保育園)	福部方面
6/27	調理実習(カレーライス)	すなはま教室	12/12	餅つき	すなはま教室
7/4	青谷和紙工房・上寺地遺跡見学	青谷方面	12/19	鳥取大学見学(デジタル時計作り)	鳥取大学
7/11	ちくわ作り・ブルーベリー狩り	河原・徳尾方面	1/16	県立博物館・わらべ館	鳥取市東町・西町
7/18	殿ダム見学・雨滝	国府方面	1/23	共同制作(折り紙)	すなはま教室
9/5	山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館	福部方面	1/30	調理実習(野菜と鶏肉のアルザス風)	すなはま教室
9/12	鳥取空港・鳥取警察学校見学	湖山方面	2/6	国際交流	すなはま教室
9/19	野外炊飯(こどもの国)・梨の袋かけ	砂丘方面	2/14	日本海新聞社・市立中央図書館見学	鳥取市富安
9/26	やまびこ館見学・茶道体験	鳥取市上町	2/20	中国電力(出前授業)	すなはま教室
10/3	白兔グランドゴルフ体験 →調理実習(カボチャ料理)	※雨天のため変更 すなはま教室	2/27	NHK・高砂屋見学	鳥取市寺町
			計31回		



ニュースポーツ



ブルーベリー狩り



鳥取警察学校見学



茶道体験

## (3) 保護者・在籍校・関係機関との連携

### ① 入級検討会

- ・保護者や本人、在籍校から入級希望や相談が寄せられた場合、まずは入級検討会を開き、対象児童生徒にとって適応指導教室入級が適切かどうかを検討した。(学校関係者・センター職員)

### ② 入級説明会

- ・適応指導教室利用についての説明会。対象児童生徒にとってより良い支援の在り方や、家庭・学校・適応指導教室の連携について確認した。(本人、保護者、学校関係者、センター職員)

### ③ 教育相談

- ・保護者との個別懇談 → 年3回〈入級時、年度途中(10月)、年度末(2月)〉
- ・学校との教育相談 → 年3回〈入級時、年度途中(10月)、年度末(2月)〉
- ・学校関係者、保護者の要望や必要に応じて、随時教育相談を実施した。主任教育相談員とも連携して、保護者や本人の教育相談に応じた。

### ④ 支援会議

- ・学校教育課生徒指導係やS S Wと定期的に通級生の状況について情報共有し、連携を図る。
- ・在籍校等はもとより、医療機関、こども発達・家庭支援センター、児童相談所、S C、L D等専門員など関係機関と連携を図り、児童生徒にとってより良い支援策を検討した。

## (4) 教室運営

### ① 保護者研修会 平成29年11月6日(月) 18時～19時半

『ともに育とう～心をつなぐかわり方～』

講師 八頭町立八頭中学校 養護教諭 下根 ゆかり先生

- ・子育てについて、「発育」と「発達」とは違う。外見だけ大人に育っていても脳は大人と違って未熟なのだから、未熟な脳を「成長」させるためには毎日の生活を積み重ねていくことが大切だということ。
- ・心をつなぐかわり方をするためにアサーティブな伝え方についても詳しく教えてくださり、参加保護者から明日からの子育て実践に役立たいという感想が寄せられた。



### ② 参観日 平成29年11月21日(火)

- ・すなはま農園で採れたサツマイモなどを使って、親子で調理活動を楽しんだ。
- ・会食後は、ペープサート劇やハンドベル演奏等の出し物を披露した。また、すなはま教室での活動の様子についてのスライド鑑賞を行い、親子で和やかなひとときを過ごした。



### ③ 個人ファイルの作成・活用

- ・個人ファイルの記録  
→ 1週間単位で目標を設定。日々の記録を綴り、児童生徒の成長を確認するとともに、支援の在り方について振り返りを行った。ファイルは週末に所内関係者で回覧し、情報共有を行った。



### ④ 情報提供

- ・「すなはま教室だより」(学校用・保護者用)を配布。(月1回)
- ・「月例報告」(学校用・保護者用)を送付し、来所回数や教室での活動について連絡した。



## (5) 成果と課題

○体験活動のみならず、日々の集団活動等も計画的に行うことによって、児童生徒にとっても見通しを持った活動を行うことができた。

また体験を通して人との関わりも増え、児童生徒の表情にも明るさが増し、心身共にエネルギーが蓄えられた。

○S S Tの学習内容を説明・相談する機会を定期的に設けることで、教育相談員等職員に安心して相談することができ、保護者の支援にも生かされた。

平成30年度に向けて

- 適応指導教室「すなはま」はもとより「レインボー」も年度当初から開設し、家庭・学校・関係機関等との連携に努め、児童生徒の支援の一層の充実を図る。

## 4 学校支援 ～ T式ひらがな音読支援事業～

### (1) 目的

小学校1学年でひらがな読みの正確さを、2学年で流暢さを重点的に支援することにより、読みの困難さから生じる学力不振や不登校・学校不適応行動の未然防止を図る。

### (2) 取組内容

#### ① T式ひらがな音読支援 (全1年児童対象)



大阪医科大学LDセンター赤尾依子先生には、5月・9月の2回“全国的なひらがな支援に関わる新しい取組”や“読み書き障害を克服するための取組”を中心に講義をしていただき、合計79人の希望参加があった。

昨年度より第3回確認は、第2回要支援となった児童のみとする一方、第3回要支援児童全員に15回の支援を実施。最終要支援者数が絞られ2年語彙指導は、昨年度の半数の人数でスタートしている。

#### ② 語彙指導 (1年次最終要支援の2年児童対象)

	確認(単音連続読み)	確認(単文音読 3文)
前半支援	語彙指導アプリ中心に	20分×20回を基準
中間確認 (9月末)	未習得文字数 ≥ 4.4個 音読時間 ≥ 54.7秒	音読時間 ≥ 17.3秒
後半支援	語彙指導アプリ中心に	20分×20回を基準
最終確認 (1月末)	未習得文字数 ≥ 4.4個 音読時間 ≥ 54.7秒	音読時間 ≥ 17.3秒
学校訪問	3年時の支援について検討	

2年担任アンケートによると、実施児童25人中17人は、学級担任以外の先生方の協力を得て語彙指導を実施していた。学校体制づくりが進んできている。語彙指導アプリ(文づくり・読みカルタ・意味カルタ)の他にも音読・ひらがなカード・漢字カルタ・スラッシュシートなどを用い、児童の実態に応じた地道な取組が実施された。

#### ③ 学校支援の立場で学校訪問

1学年は第1回確認で20文字以下だった児童の、2学年は全語彙指導対象児童の在籍校を訪問し、授業中の困り感と対応策・個別の支援状況について情報交換・教材提供をした。



拗音サイコロ



漢字カルタ

### スラッシュシート

**第二段階**

①なるべく大きなまとまりをとらえて、線を引こう。

7 そのい...  
6 お...  
5 そのあ...  
4 子ども...  
3 く...  
2 あ...  
1 た...  
NO.3 月 日 名前

**第一段階**

①意味のあるまとまり(単語)をみつける。  
②助詞を○で囲む。  
※「くつき」とは「は、上のことばにくつき」だよ。  
③くつきとはまで入れて、線を引き、一息で読もう。

⇐特殊音節プログラム

学校訪問では、ひらがな支援の成果を強く感じるものがいくつかあった。

＜例＞「はじめはモーラ分解も困難だったが、少しずつタブレット支援ができるようになっていった7月末、児童が『先生、ぼくが〇〇当番って書いてある！』と興奮して言ってきた。今までこの子にとって掲示が意味をなしていなかったことに驚いたが、読めたことを教師と子どもで大喜びした。」

※ 文字が読めるようになるということは、子どもの世界が広がることであると再確認！！

### (3) 結果の概要

平成29年度 1年ひらがな音読支援結果					H29 2年語彙指導児童の音読確認平均値				
	第1回確認	第2回確認	第3回確認	最終確認		単音		単文	
実施人数	1,529	1,537	170	41	1年次(最終) 22人	基準値	時間≥67秒	未習得≥9個	時間≥35秒
要支援数	168	171	41	17		平均	60.66	1.27	43.97
要支援率(対象比)	11.0%	11.1%	24.12%	41.46%	2年次(中間) 25人	基準値	時間≥54.7秒	未習得≥4.4個	時間≥17.3秒
要支援率(全体比)	11.0%	11.1%	2.42%	1.00%		平均	53.51	1.16	27.81
			全体 1,694		2年次(最終) 22人	基準値	時間≥54.7秒	未習得≥4.4個	時間≥17.3秒
						平均	51.16	0.95	22.69

※中間確認で3人、最終確認で5人、計8人が基準値に達した。

1学年については、第1回・2回確認とも要支援率が高かったが、第3回確認ではぐっと減少した。(昨年度対象比-9.49%、全体比-0.08%)。最終要支援となった児童は17名で全体比としては、1%ほどになった。21回支援のところを保護者と連携して42回実施して提出されたところもあるなど、熱心に取り組んだ結果ではないかと思われる。(上左表)

2学年については、中間確認では、3名、最終確認では5名、計8名が2年生の基準値に達し、語彙指導を修了した。残り17名についても、基準値に達するまでには至らなかったが、単音音読時間・未習得数・単文音読時間ともに改善が見られた。(上右表)

### (4) 成果と課題

○ 鳥取市全小学校で取り組む「T式ひらがな音読支援」も、4年の積み上げができ、確認→支援を繰り返すRTIモデルの流れも定着してきた。また教職員の間でも、低学年でのひらがな音読支援の重要性が浸透してきた。

○ 1学年では全要支援児童256名中**132**家庭(昨年度85家庭)の家庭がタブレット支援を行い、家庭の意識の高まり・学校との連携も強まった。

□ 右表が示すように、1学年第1回(6月)時点での要支援率の増加については、今後の推移をみながら関係機関とも情報交換を行い、原因について検討していきたい。

□ 1学年6月時点の音読確認(直音150文字を1分で読める文字数)では、20.9文字の学級間差が認められた学校もある。学級差に対応する校内支援体制の構築が必要である。

□ 第3回音読確認で**未習得・誤読が多かった5文字**は、「ひゅ・ぴゃ・りゃ・びゃ・によ」であった。使用頻度が低いことも一因とみられるが、意識して習得を図りたい文字である。

	H26	H27	H28	H29
実施総数	1,692	1,588	1,573	1,529
要支援者	147	146	150	168
要支援率	8.7%	9.2%	9.5%	11.0%

平成30年度に向けて 「ひらがな音読支援事業 ～T式とMIMの効果的な連動～」

●鳥取県が全小学校に多層指導モデルMIMを配付した。授業中に活用できる教材がたくさんあるので、県の取組とT式ひらがな音読支援事業と連動させながら、学校にとって効率よく、ひらがな読みの定着が図れるような取組を進めていく。

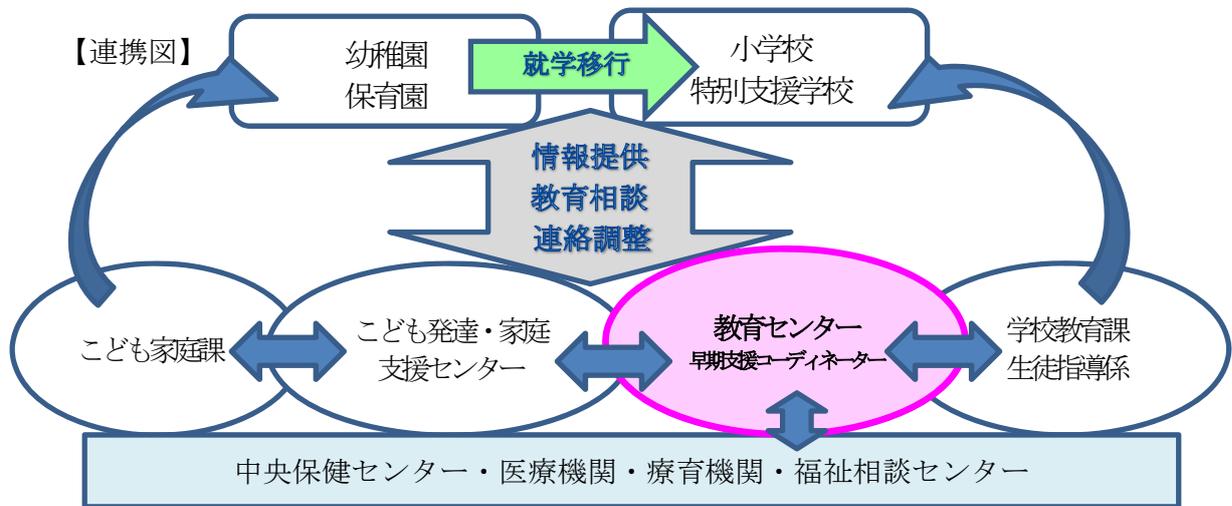
## 5 学校支援 ～早期からの教育相談・支援体制構築事業～

### (1) 目的

特別な支援が必要となる可能性のある子ども及びその保護者に対し、早期から情報の提供や教育相談を実施し、柔軟できめ細やかな就学移行ができる一貫した支援体制を構築する。

#### 【早期支援コーディネーターの役割】

- ① 就学支援に関し、教育・保育・福祉・保健・医療等の関係部局・機関や地域等との連絡・調整、情報収集
- ② 就学期に関する教育相談と移行支援
- ③ 本人・保護者への就学に関する情報の提供



### (2) 取組内容

#### ① 相談内容と実績

1	園訪問による早期の教育相談	39園62回	実数148名
2	園訪問後の継続個別相談	116回	延べ116名
3	学校見学に関する相談・引率	27回	実数19名
4	就学時健康診断後の就学相談	43回	延べ43名
5	就学移行支援会議への出席	18回	実数18名
6	就学後の支援会議（フォロー会議）	7回	実数6名
7	5歳児発達相談会場での教育相談	13回	実数19名
8	就学後の保護者相談（来所・電話）	44回	実数18名

#### ② 連携強化の取り組み

- ・年度初めの園訪問と夏休み前の声かけ・訪問、就学時健康診断後の就学相談を行い、園支援と学校への引き継ぎの充実を図った。
- ・四課会（こども家庭課、こども発達・家庭支援センター、中央保健センター、教育センター）や二課会、他機関主催の健診・研修会に参加し、関係機関との連携を強めた。
- ・園や小学校の就学相談に対する理解を深めるため、「就学相談の手引き」を配付した。

### ③ 「にじのきょうしつ」(就学前小集団活動)

**【目的】** 小学校入学後の困り感が大きいことが予想される子どもに対して、入学時に必要なスキルやルールを学ぶ機会をつくり、家庭と連携しながら入学に対する自信を育む。

- ・今年度は、7名の園児と保護者が通所した。
- ・AとBの2グループに分け、隔週火曜日に、約1時間の活動を行い支援した。
- ・早期支援 Co. の保護者への教育相談・就学相談  
→ 延べ28名(実数6回×3名、3回×2名、2回×2名)

【「にじのきょうしつ」在籍人数】

【支援内容】

グループ月	A	B	グループ月	A	B	グループ月	A	B
4月	0	0	8月	2	1	12月	4	2
5月	1	1	9月	3	1	1月	6	0
6月	1	1	10月	4	0	2月	6	0
7月	1	1	11月	4	0	3月	6	0

- 人とのかかわり
- 感情表現・コントロール
- 約束の理解・行動化
- 身に付けておきたい技能
- 聞く・話す・書く意欲
- ひらがな・数字への興味・関心

●Aグループ：20回実施 → 延べ63名参加

●Bグループ：6回実施 → 延べ7名参加

### (3) 成果と課題

- 一年を見通した園訪問・声かけにより、段階的に実態把握ができたことで、園や保護者への就学相談につながり、小学校に引き継ぐ体制作りができた。
- 「にじのきょうしつ」では、小学校生活につながる体験をしたことで、自信を持って活動する児の姿が見られるようになった。保護者に対しては、後半から毎月1回目は保護者同士の情報交換、2回目は早期支援 Co. による個別相談の場を設け、安心感も高まった。
- 「就学に関する教育相談」の保護者向けリーフレットの配付や学校見学の引率・就学相談を行い、保護者への情報提供や理解・啓発が図れた。
- 移行支援会議が園主催で進んで行われることが多くなり、幼保から小学校への引き継ぎの流れが定着してきた。
- 就学に向けて、関係機関が連携し効果的な支援を行うために、教育センターを中心とした情報の共有を検討していく必要がある。
- 就学時健康診断後に初めて就学相談を行った児も多かった。早めに情報を得て対応し得るような働きかけの工夫や人員体制が必要である。
- 「にじのきょうしつ」の位置付けを明確にし、周知と活用を進める必要がある。

平成30年度はに向けて

- 年間の見通しを持った就学移行支援体制を強化するため、「育ちをつなぐ」「就学相談の手引き」の周知と活用を図る。
- 関係機関の情報共有の在り方を検討し、一貫した就学相談や移行支援を行う。

## 6 教職員研修

### (1) ねらい

鳥取市の特色や学校・地域の実態、教職員のニーズを踏まえ、関係機関等と連携しながら、鳥取市教育の基本理念である「ふるさとを思い 志をもつ子を育て、夢と希望に満ちた次代を“ひらく”」の実現につなぐ。

(主な事業)

- ・鳥取市教職員としての資質・指導力の向上をめざした研修の実施
- ・新たな教育課題に対応するための各種事業の企画・運営、学校教育活動の円滑な実施のための支援、教育情報の提供

### (2) 実績

研修名	開催日	内 容	参加者
初任者研修	4/ 4	講義「子どもの心をつかむ極意～意図的・計画的生徒指導の実際～」	47名
	6/5～ 6/20	新卒初任者学校訪問 (授業公開・管理職面談・初任者面談)	5名
	7/28	①演習1「心をつなぐコミュニケーションゲーム」 ②講義1「自己を見つめ考えを深める道徳授業」 講師 青谷中学校 山口 正子 教諭 ③講義2「やってみよう！道徳の時間」 ④演習2「『鳥取市の志』を子どもたちのものにするために」	42名
	9/25 ～11/7	初任者学校訪問 (授業公開・管理職面談・初任者面談)	42名
	11/27 11/28 12/11	東中学校初任者公開授業（道徳）及び研究協議 中ノ郷小学校初任者公開授業（道徳）及び研究協議 賀露小学校初任者公開授業（道徳）及び研究協議 ①協議1「中心発問から考える」 ②協議2「学ぶ意欲を高める授業づくり」	39名
	講師研修	8/19	①演習「事例研究から児童生徒理解を考える」 ②講義「一人一人を大切にした学級づくり ～つながろう・つなげよう～」
11/20 ～12/8		4小学校、3中学校において先輩教諭の授業参観及び研究協議 ①講話1「教師としての姿勢」（校長） ②講話2「授業づくりと学級経営（保健指導と保健室経営）」 (授業者)	77名
学力向上 研修	5/23	①説明・協議1「本年度の学力向上の取組について」 ②情報交換・協議2「次の学ぶ意欲につなげる振り返りにするために」	60名
	10/26	①説明「今後の学力向上の取組について」 ②情報交換・協議1「次の学ぶ意欲につなげる振り返りについて」 ③情報交換・協議2「今後の授業改善に向けて」	58名

研修名	開催日	学校名	研修内容	参加者
教師力向上 サポート研修	6/8	桜ヶ丘中学校	○目標・指導・評価を明確にした授業づくり ○学習指導案作成について	8名
	6/28	美保小学校	○児童生徒理解と集団づくり ○アセスの実施、活用について	35名
	7/12	河原第一小学校	○道徳教育の進め ○自己を見つめ直し、考えを深める道徳学習について	17名
	8/1	醇風小学校	○児童生徒理解と集団づくり ○支援の必要な児童の見とり及び支援の仕方について ○個を大切にしたい集団づくりについて	22名
		日進小学校	○児童生徒理解と集団づくり ○アセスの実施、活用について	22名
	8/23	美保南小学校	○目標・指導・評価を明確にした授業づくり ○外国語活動の授業づくりについて	30名
		桜ヶ丘中学校	○児童生徒理解と集団づくり ○アセスの実施、活用について	50名
	9/26	国府東小学校	○目標・指導・評価を明確にした授業づくり ○新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについて	11名
	12/6	明德小学校	○外国語科の授業づくりと教師の指導力について	12名
	12/20	世紀小学校	○児童生徒理解と集団づくり ○アセスの実施、活用について	23名
2/21	美保南小学校	○児童生徒理解と集団づくり ○アセスの実施、活用について	30名	

<次代を担うとっとり教職員派遣>

①県外派遣

	研修テーマ	時期及び派遣先	研修生
1	教育課程 外国語	6/14～6/16 京都府京都市立大藪小学校 京都府京都市立久世西小学校	世紀小学校 杉山 響子 教諭
2	教育課程 外国語	6/12～6/16 京都府京都市立久世中学校	気高中学校 安藤 宏樹 教諭
3	教育課程 道徳	7/6～7/8 四天王寺大学	青谷中学校 山口 正子 教諭
4	学校不適應の解消	6/26～6/30 岡山県総社市立総社西中学校 岡山県総社市立総社東中学校	賀露小学校 谷口 聡 教諭
5	学校不適應の解消	6/26～6/30 岡山県総社市立総社西中学校 岡山県総社市立総社東中学校	青谷小学校 平野 靖博 教諭
6	学校不適應の解消	6/20～6/22 広島大学 教育実践総合センター	岩倉小学校 中田 洋介 教諭
7	学校不適應の解消	6/20～6/22 広島大学 教育実践総合センター	東中学校 渡辺 孝生 教諭
8	特色ある学校づくり (コミュニティスクール)	7/12～7/13 東京都東三鷹学園三鷹市立第六中学校 東京都府中市立府中第八小学校 東京都府中市立府中第九中学校	南中学校 田中 栄一 教諭

## ②報告会

開催日	場 所	内 容
7/28	鳥取市教育センター	初任者研修での講義、演習での指導助言 「自己を見つめ考えを深める道徳授業」 講師 青谷中学校 山口 正子 教諭
8/21	とりぎん文化会館	全教職員研修でのパネルディスカッション 「学校不適合解消の取組に学ぶ」 パネリスト 賀露小学校 谷口 聡 教諭 青谷小学校 平野 靖博 教諭 岩倉小学校 中田 洋介 教諭 東中学校 渡辺 孝生 教諭
10/31	市役所 駅南庁舎	副校長・教頭研修での研修報告 「三鷹市、府中市のコミュニティスクール先進校に学ぶ」 報告者 南中学校 田中 栄一 教諭
2/15	鳥取市教育センター	小学校外国語活動中核教員研修での研修報告 「ピア・サポートを活用した久世中学校区の小中一貫教育」 報告者 気高中学校 安藤 宏樹 教諭 「児童が進んでコミュニケーションを図ろうとする授業づくり」 報告者 世紀小学校 杉山 響子 教諭

## (3) 成果と課題

### ① 初任者研修会

- ・初任者訪問の際には、自己評価票を活用して初任者自らの強みと課題を分析し、管理職、指導教員との情報交換を綿密に行った。さらに、学習指導、生徒指導のポイント資料を提示して初任者の指導力向上を図った。来年度は、集合研修の内容を見直し、よりきめ細やかな訪問指導、研修内容を実施する。

### ② 小・中学校講師研修会

- ・第1回は、特別支援教育の視点からの児童生徒理解について学ぶことができた。「先輩に学ぶ」研修では、授業参観や校長講話から教師として必要な授業力や人間力について学び、今後の実践で何をすべきかを考えるよい機会となった。

### ③ 学力向上研修会

- ・第1回、第2回ともに「次の学ぶ意欲につながる振り返り」に焦点化して研修を行った。振り返りの改善について学校間のばらつきがあったが、参加者の活発な情報交換、協議によって振り返りの意義や視点について共通理解することができた。来年度は、授業づくりや校内OJTの充実に向けて研修内容を構成していく。

### ④ 教師力向上サポート研修

- ・新学習指導要領改訂に向けた授業づくりへの対応や児童生徒理解と集団づくりに向けたアセスメントの実施と活用に対するニーズが高かった。

### ⑤ 次代を担うとっとり教職員派遣

- ・研修内容の効果的還元のため、全教職員研修及び市教委主催各研修で派遣報告を行った。来年度は、研修テーマや派遣先、派遣期間について柔軟に対応し、これまで以上に学校(中学校区)の課題に即した研修に改善する。

平成30年度に向けて

- 中核市移行に伴い、鳥取市の教育課題に焦点化した教職員研修を主体的に企画・実施し、各校の課題解決に向けた戦略の立案、実施に役立てる。
- 不適合解消(未然防止)・学力向上に向けて共通の方向性のもと、一貫性のある実践によって様々な課題に対応できる人材を育成するための研修を充実させる。
- 特別支援教育の視点を中心に複数のキャリアステージを貫く研修課題を設定し、「研修で学校が変わる」ことを目指し、学校組織マネジメントの推進と校内OJTの活性化を図る。

## 7 学校支援人材活用 ～小学校外国語活動支援員～

### (1) ねらい・内容

- ・小学校外国語活動では、担任主導の学習展開を基本とするが、外国語や外国の文化に慣れ親しませたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけさせたりするために、外国語に堪能な地域人材やネイティブスピーカーと触れ合うことが効果的である。
- ・小学校外国語活動のねらいであるコミュニケーション能力の素地の育成を図るために、外国語活動の授業を補助する人材を活用し、外国語活動の円滑な実施及び充実を図る。
- ・各学校が自主的に依頼したり、鳥取市教育センターの人材バンクから紹介を受けたりして確保した支援員により、5・6年生の各学級につき年間12時間分の外国語活動授業において担任の授業を補助する。

### (2) 配置実績

- ・市の事業41校、県の事業18校で、後者の学校はすべて前事業を併用(2名配置は2校)
- ・配置した支援員は18名で、14名が兼務(最も多い支援員で5校)
- ・外国人支援員は7名、日本人支援員は11名

### (3) 成果と課題

- 豊富な指導経験を生かした楽しい授業展開で、児童の興味・関心を引き出している。
  - 同一校への継続配置により、児童も安心して活動に取り組めた。
  - 授業構成や活動の工夫など、担任にとって支援員の指導が参考となっている。
  - ネイティブの発音を聞きとり、様々な国々の文化・習慣の違いについても知ることができる等、児童にとって貴重な経験となり、学習への興味・関心も高まった。
  - 鳥取市小学校教育研究会外国語活動部会の授業研究会に、のべ13名の支援員が参加し、授業参観や研究協議会への参加を通して、支援員の役割や支援の在り方について理解を深めることができた。
- △支援員への連絡や授業内容の打ち合わせ、ふり返りについて十分な時間確保が難しかった。
- △外国籍の支援員の場合、教職員との事前連絡や相互のコミュニケーションについて課題がある。
- △平成30年度、鳥取市は新学習指導要領を先行実施し、3・4年生で外国語活動が年間35時間行われ、5・6年生では年間70時間行われる。支援員の人数をさらに確保することや支援員全体の指導力を高める必要がある。

平成30年度に向けて

- 新学習指導要領の先行実施に伴い、3～6年生に支援員配置対象学年を拡大する。学校のニーズを把握し、外国語活動支援員の増員及び適切な配置に努める。
- 外国語活動支援員を対象とした研修を実施し、新教材を使った学習における支援の在り方について理解を深め、担任とのチームティーチングの充実を図る。

## 8 きなんせ！English World

### (1) ねらい

外国語指導助手（ALT）や地域の外国人との活動を通して、児童がたっぷりと英語にふれ、視野を広げ、英語で積極的にコミュニケーションしようとする意欲を高めるきっかけとする。

### (2) 実績

(きなんせ！English World) 土曜学習 9:55～11:45

回	期 日	活動内容	スタッフ	参加者
1	6月3日	夏をテーマにした活動【対象：5・6年生】 (エッグリレー、ジャンケンタイム、ワットドゥーユーライク)	ALT13名 支援員2名	24名
2	10月14日	ハロウィーンにちなんだ活動【対象：5・6年生】 (ウィザード・ドゥエル、モンスター・マッシュ、トリック・オア・トリート)	ALT13名 支援員4名	21名
3	12月16日	クリスマスにちなんだ活動【対象：5・6年生】 (タイフーン、スプリング・ハット、トレンジャー・ハット)	ALT13名 支援員4名	32名
4	2月24日	冬をテーマにした活動【対象：4～6年生】 (タイフーン、スプリング・ハット、ジャンケンタイム)	ALT12名 支援員4名	42名

(きなんせ！English World キャラバン) 水曜日実施

回	日 時	学校	スタッフ	参加者
1	5月31日 9:00～15:00	明德小学校	ALT 8名、支援員1名	3～6年 113名
2	5月31日 9:00～15:00	東郷小学校	ALT 5名、支援員2名	28名
3	6月14日 9:00～13:25 13:30～15:00	福部未来学園	ALT 8名、支援員2名	小学校 134名 中2・3年 49名
4	6月14日 9:00～13:00 13:15～15:00	神戸小学校 江山中学校	ALT10名、支援員2名	小学校 24名 中1年 28名
5	6月28日 9:00～15:00	美保南小学校	ALT13名、支援員2名	3～6年 384名
6	7月 5日 9:00～12:50	青谷小学校	ALT 6名、支援員1名	211名
7	7月 5日 9:00～11:20 11:30～15:00	浜村小(気高4小) 気高中学校	ALT 7名、支援員1名 ALT13名、支援員2名	小6年 61名 中1年 28名
8	9月20日 9:00～15:00	浜坂小学校	ALT11名、支援員3名	564名
9	9月27日 9:00～15:00	美和小学校	ALT 6名、支援員1名	143名
10	9月27日 9:00～12:45	鹿野小学校	ALT 6名、支援員1名	153名
11	10月18日 9:00～13:00 13:10～15:00	国府東小学校 国府中学校	ALT 6名、支援員2名	小学校 94名 中1年 70名
12	10月18日 9:00～13:00 13:15～15:00	散岐小学校 河原中学校	ALT 6名	小学校 69名 中1年 56名
13	11月 8日 9:00～15:00	末恒小学校	ALT13名、支援員2名	319名
14	11月22日 9:00～15:00	中ノ郷小学校	ALT12名、支援員2名	245名
15	12月 6日 9:00～15:00	面影小学校	ALT11名、支援員2名	3～6年 290名

### (3) 主なアクティビティ

小・低学年	○英語を聞いて体を動かしながら、外国人とのふれあいを楽しむ活動 (例)・フルーツ (動物、ハロウィーン、クリスマス、色等) バスケットゲーム ・「好き・きれい」ゲーム (食べ物、季節等) ・数字を使ったアクティビティ
小・中学年	○英語を聞いたり単語を伝えたりしながら、英語にたっぷり触れる活動 (例)・カルタゲーム (動物、フルーツ、数字、スポーツ等) ・伝言ゲーム (動物、フルーツ、数字、スポーツ等)
小・高学年	○外国語活動で慣れ親しんだ表現を用いて外国人とコミュニケーションする活動 (例)・コミュニケーション活動 (自己紹介、趣味、行ってみたい国、将来の夢等) ・スリーヒントクイズ (趣味、特技、行ってみたい国、将来の夢等)
中学校	○外国語授業で身に付けた表現を活用して外国人とやりとりする活動 (例)・コミュニケーション活動 (鳥取について、自分の夢、文化の違い等)

### (4) 成果と課題

○English World を4回、ALT等が学校に出かけるキャラバンを15回実施し、約3,200名の児童生徒が外国人と英語でコミュニケーションできる喜びを体験した。ALT等とのコミュニケーションの場面を多く設定したり、文字を意識して活動内容レベルを徐々に上げたりするなどの工夫により、事後アンケートでは、ほぼ全員が「楽しかった、また参加したい」と回答しており、満足度は高い。



○土曜日に実施する English World に複数回参加した児童は、自ら進んで英語を活用しようと積極的に活動し、中学校での「鳥取市グローバル人材育成事業 (中学生シンガポール派遣研修)」への参加等に発展的につながっている。



○面影小学校でのキャラバンについては、中学校区の英語、外国語担当者が見学に訪れ、小中連携した指導について情報交換を行うことができた。

○スタッフのALTや地域人材が主体的に企画・運営することでスタッフの一体感と達成感が高まっている。スタッフ同士の情報交換や指導力向上のよい機会にもなっている。

△新学習指導要領の改訂に伴い、鳥取市は平成30年度より小学校3・4年生での外国語活動 (35時間)、5・6年生での外国語科 (70時間) を先行実施する。英語でのやりとりや文字を意識した活動を増やし、さらに活動の充実を図りたい。

平成30年度に向けて

- 「キャラバン」では、複数年実施校の自立を促す支援によって新規実施校を増やすとともに、小・中連携も意識しながら学年段階に応じた活動を工夫する。
- 土曜実施の「きなんせ」では、4年生の参加回数を2回に増やし、活動内容を充実させながらレベルアップを図る。

## 平成29年度 所報第11号

発行日 平成30年3月31日  
発行所 鳥取市教育センター  
〒680-0053 鳥取市寺町150番地  
TEL (0857) 36-6060  
FAX (0857) 26-3878  
E-mail [kyo-center@city.tottori.lg.jp](mailto:kyo-center@city.tottori.lg.jp)  
URL <http://www.city.tottori.lg.jp/>

